

# 1. 地区の概況

図1 地区の位置

\*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成



表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	12,485	11,866	11,558	▲ 619	▲ 308	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	1,524	1,354	1,182	▲ 170	▲ 172	11.4	10.2	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	635	523	472	▲ 112	▲ 51	4.4	4.1	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	8,279	7,433	7,024	▲ 846	▲ 409	62.6	60.8	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	688	650	649	▲ 38	▲ 1	5.5	5.6	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	2,846	2,208	1,877	▲ 638	▲ 331	18.6	16.2	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	2,834	3,079	3,352	245	273	25.9	29.0	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	1,515	1,542	1,593	27	51	13.0	13.8	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,319	1,537	1,759	218	222	13.0	15.2	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	6,045	5,901	6,104	▲ 144	203				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.07	2.01	1.89					2.29	2.10

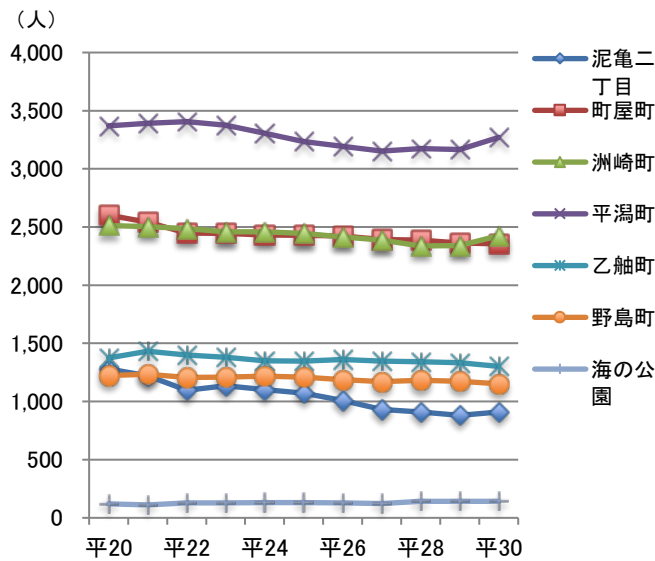
\*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

\*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

\*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

## 2. 町丁別人口世帯の動向 \*「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



金沢地区には、平成30年9月末現在約11,560人が暮らしています。世帯数は約6,100世帯、平均世帯規模は1.89人/世帯です。(表1参照)

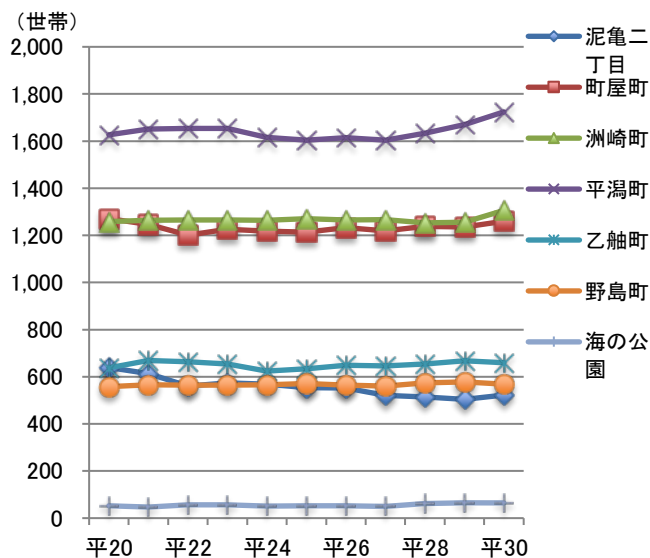
人口は、平成25～30年の期間で見ると減少しています。世帯数は増加になりました。

世帯規模は、縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模は市の平均水準(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)を下回っており、区内で最も小さくなっています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は29.0%で市平均(24.2%)、区の平均(28.9%)を上回っています。高齢化率は5年間で3.1%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)比率、15～64歳の人口(生産年齢人口)比率はいずれも低下しました。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向

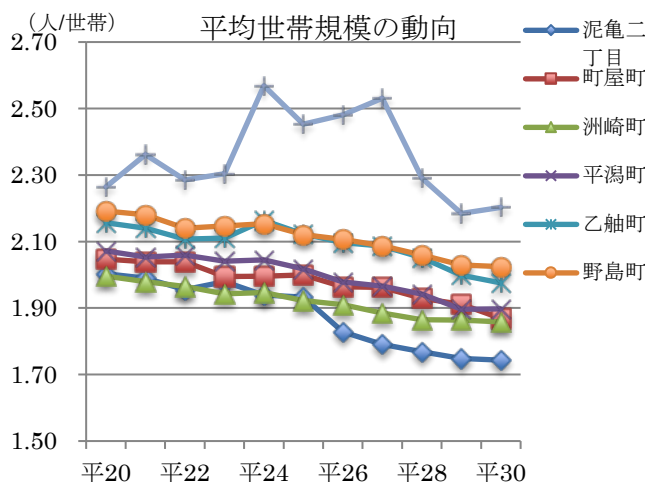


金沢地区には、7町丁が含まれています。

人口は、平潟町、泥亀二丁目など減少傾向がやや強い町丁もみられますがいずれも安定又は増加になりました。他の町丁の人口は安定あるいはわずかに減少となっています。世帯数はいずれの町丁も概ね安定した状態が続いています。(図2,3参照)

世帯規模は、海の公園を除いていずれも安定または緩やかな縮小傾向が続いています。(図4参照)

図4 町丁別平均世帯規模の動向





### 3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

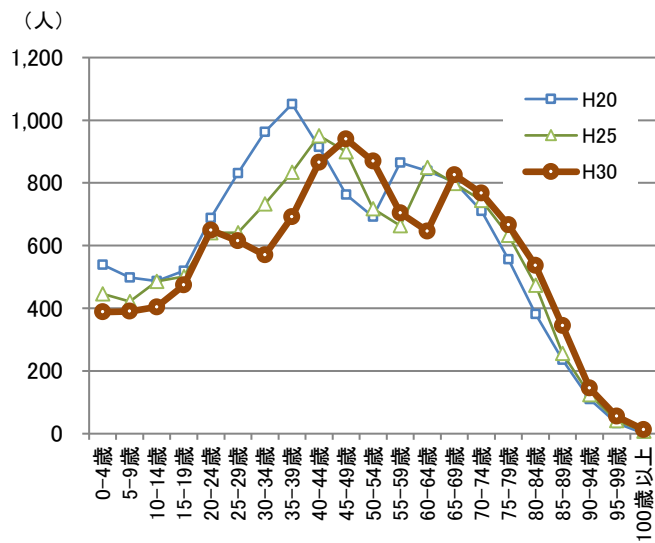
\*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。  
\*施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。





### 4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化



\*年齢別人口は「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在  
\*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率

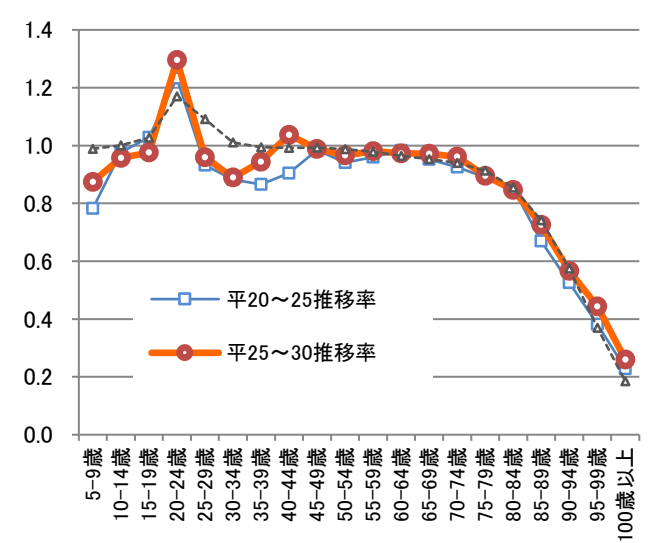
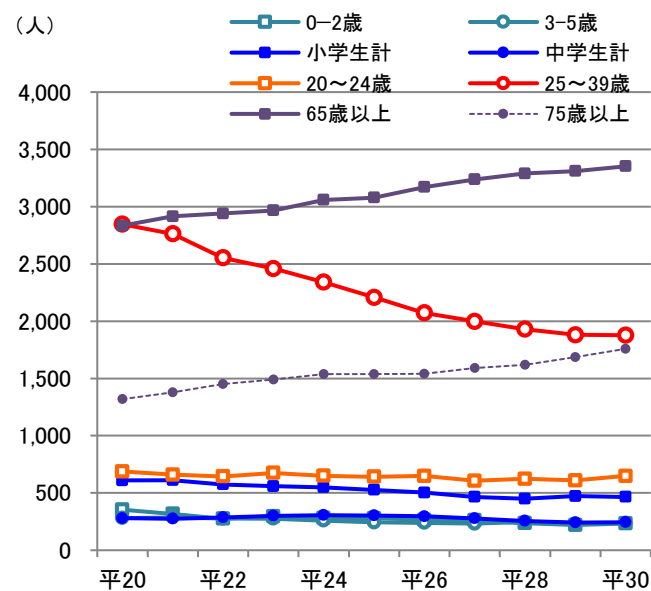


図8 年齢別人口の変化



\*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

金沢地区は40歳代と65～69歳の人口が多くなっています。

20歳代前半に転入による増加がみられますが、25～44歳と5～9歳に転出による減少がみられます。(図6,7参照)25～39歳の世代が減少していることがわかります。(図8参照)

人口移動は、近年、転出が転入を上回る傾向が続いていましたが、平成28年は転入が転出を上回りました。(図9参照)

平成28年の社会移動をみると、ほぼ全ての年代で転出傾向が弱まり転入増加の傾向が強まっていることがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

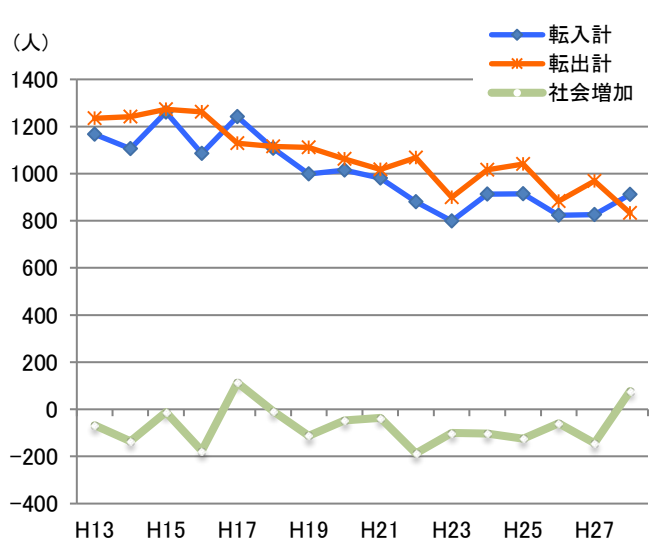
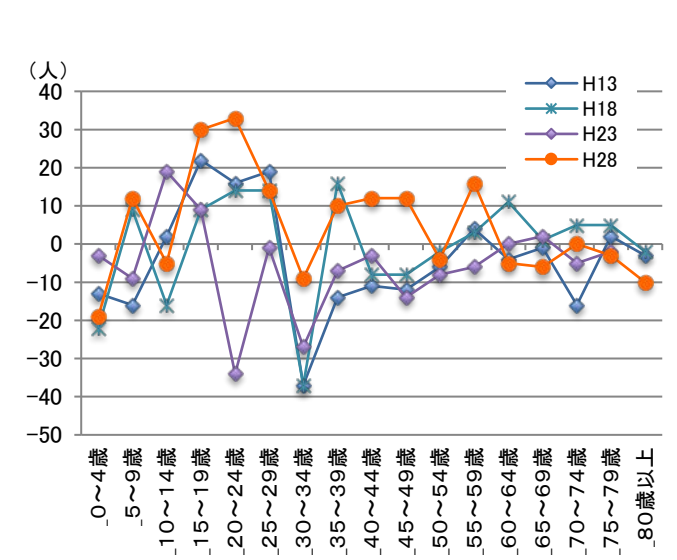


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



### 5. 世帯の状況と居住歴

\*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

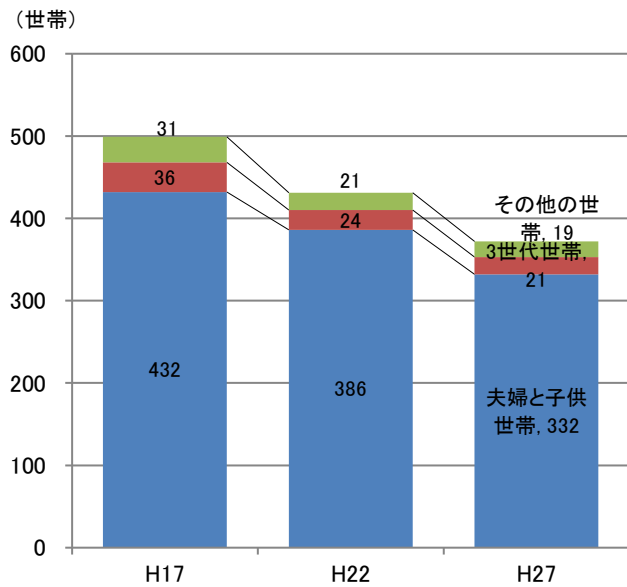


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

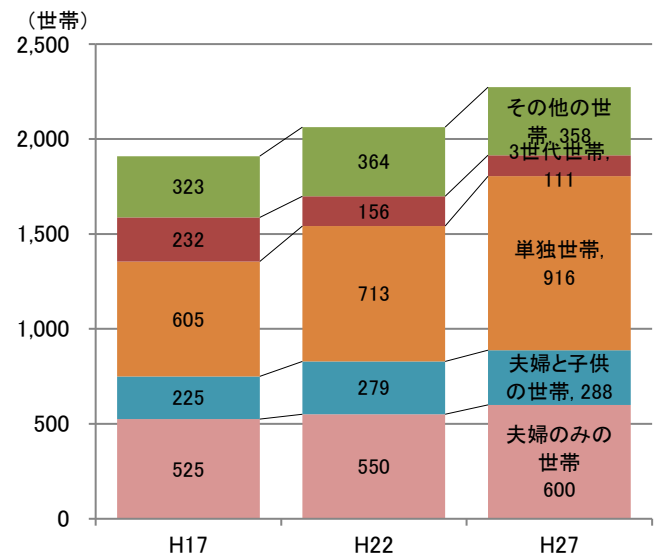


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

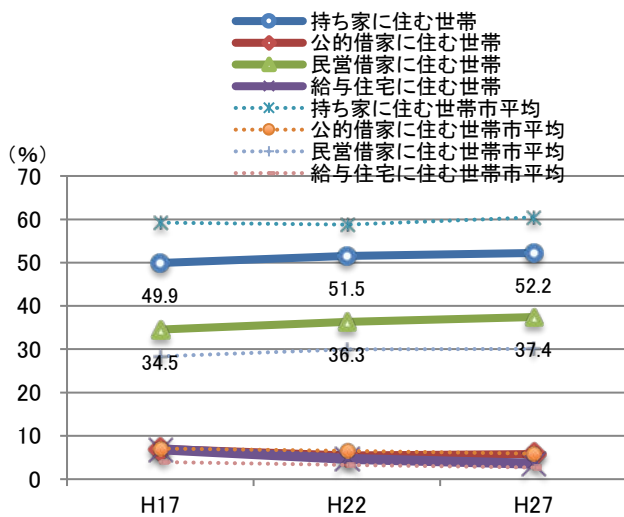


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

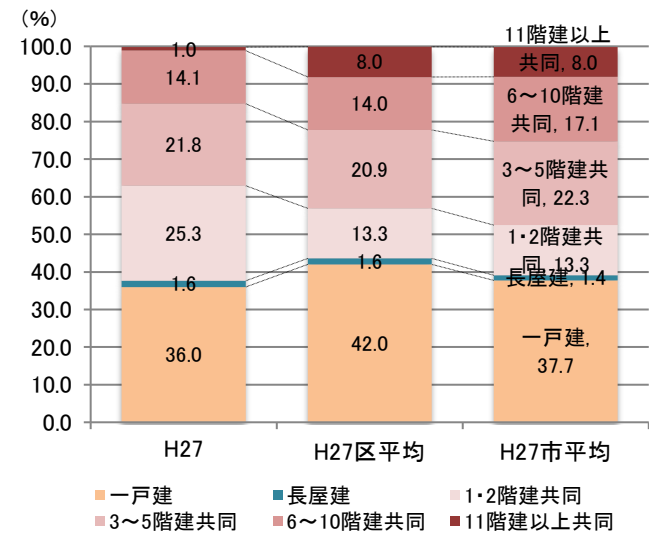


図 15 規模別世帯の動向

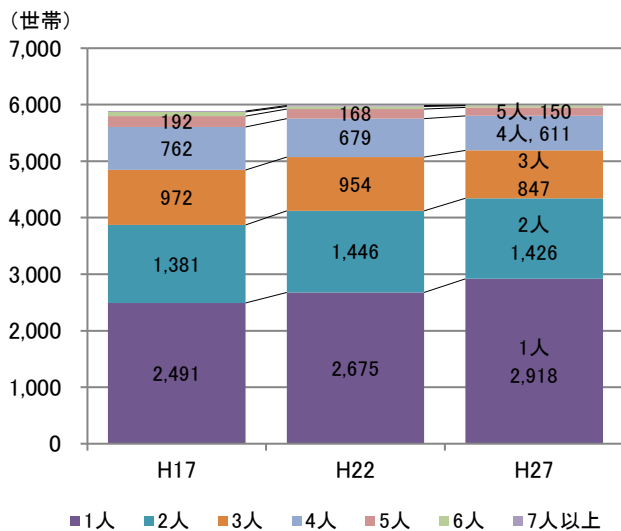
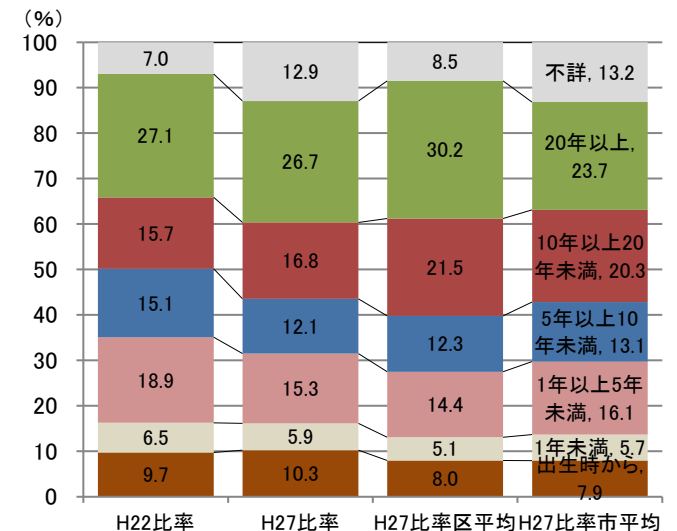


図 16 居住歴別人口の割合



## 6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	489	899	824	1,634
対世帯総数比率(%)	7.9 (区平均 4.8)	14.5 (区平均 11.7)	13.3 (区平均 14.3)	26.3 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	29.9 (区平均 17.9)	55.0 (区平均 43.4)	50.4 (区平均 53.2)	100.0

\*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

\*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

\*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

\*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

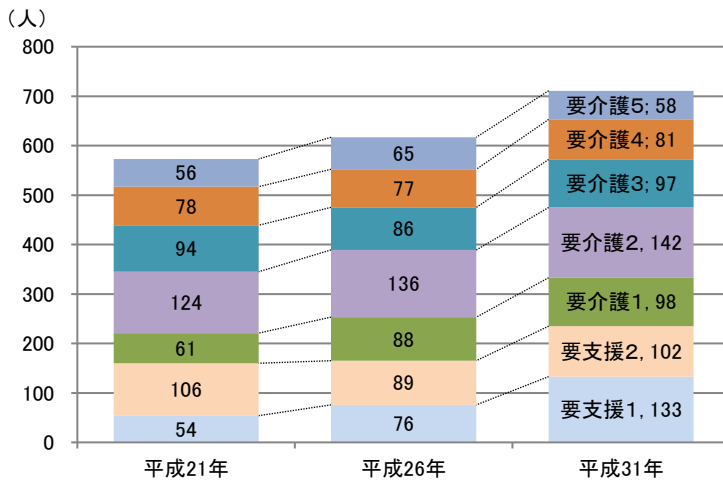
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	711	133	102	98	142	97	81	58
人口比(%)	6.09	1.14	0.87	0.84	1.22	0.83	0.69	0.50
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	18.71	14.35	13.78	19.97	13.64	11.39	8.16
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

\*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

\*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



\*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

## 7. 地区の特徴と動向

金沢地区は平潟湾に面した市街地と、野島を含む住宅です。地区の南側をシーサイドラインが通っており、海の公園南口駅、野島公園駅があります。

戸建て住宅に住む世帯は36%で、共同住宅に住む世帯が多くなっています。中でも1・2階建ての共同住宅に住む世帯が約25%で、区の平均(約13%)に比べて2倍程多いことが特徴です。(図14参照)

また、持家に住んでいる世帯が約52%を占めています。民間の借家に住む世帯は約37%です。区の平均に比べて持家の比率が低く、民間の借家に住む世帯の比率が区平均に比べて多くなっています。(図13参照)

居住期間が短い人が区の平均に比べてやや多くなっています。平成27年時点で、居住期間が「1年未満」や「1年以上5年未満」の比率が区の平均を上回っています。(図16参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は減少が続いています。

6歳未満の子どもがいる世帯は平成27年で約370世帯で、世帯総数(約5,990世帯)の約6%を占めています。このうち約89%が核家族です。(図11参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は増加が続いています。特に高齢の単独世帯、高齢の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で高齢者のいる世帯数は約2,270世帯で、世帯総数の約38%です(区平均は約41%)。このうち、高齢の夫婦のみの世帯は約26%、高齢の単独世帯は約40%です。高齢の一人暮らしの世帯の比率が高いことが特徴です。(図12参照)

平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約41%で、区の平均(約43%)に比べてやや低い比率です。(表2参照)

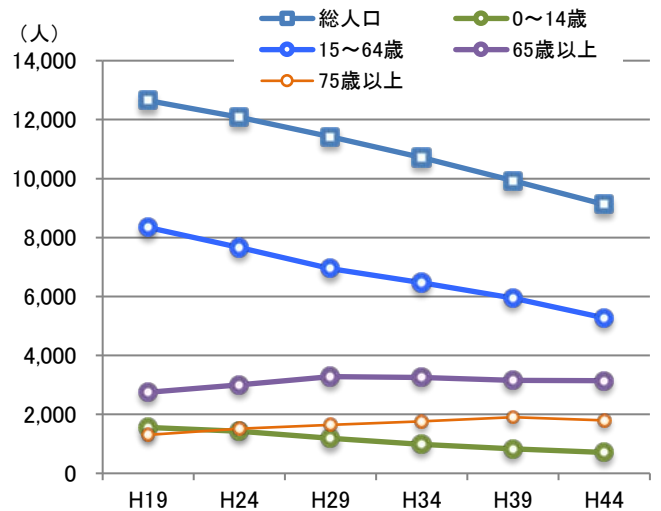
また、要介護認定者の人口比率は約5.6%で、区の平均(約4.7%)を上回っています。(表3参照)

現在は、20歳代前半に転入による増加傾向がみられるものの、25~44歳を中心に転出により減少する傾向があるため、結果的に人口減少が続いています。(図7参照)

現在の年齢5歳別の人口の変化の傾向が続くと、今後も緩やかな人口減少が続きます。

既に高齢化率が高くなっていますが、今後、高齢期を迎える人口が減るので、65歳以上の人口の増加は安定します。(図6参照)

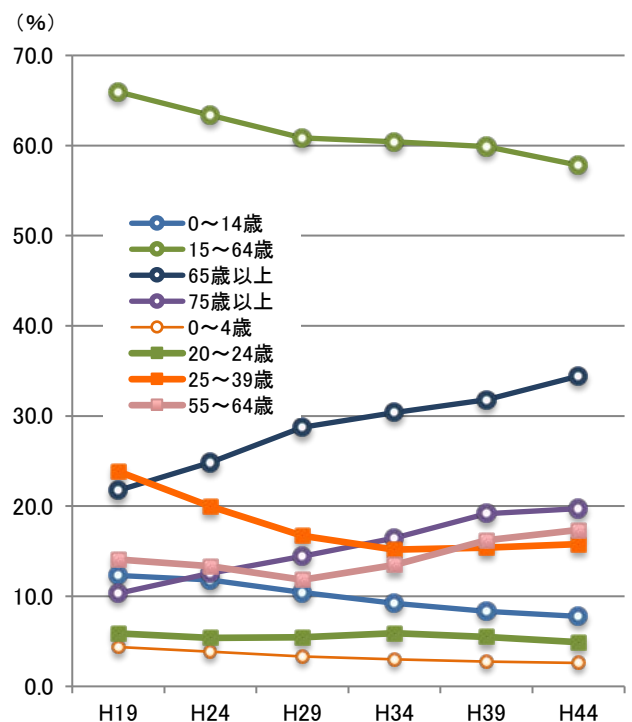
図18 人口の動向と推計



\*平成24~29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

\*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率



現在の75~79歳の人口に比べて、今後75歳以上になる60~74歳の人口が多いため、75歳以上の高齢者は増加が続くと考えられます。(図6、7、18、19参照)